

令和4年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	地域活動支援センターⅢ型
施設の名称	びあ・ふれんず
施設の所在地	長野市大字高田1134-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～土(祝日、年末年始除く)9:30～17:00 実開所日数:293日 ※第1・3月曜は9:30～15:00 15:00～ミーティング
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	管理責任者 1名 主任・支援員 1名 支援員 1名
利用対象者	障がい限定なしで受け入れ
利用者の状況	登録:155名 (延利用総人数4959名)
送迎	R3.10～身体の方を優先に開始(約3 ^名 。範囲内) ※相談に応じる
車輛の利用状況	クリッパー(軽車輛:H25.1登録) ※車いす1台乗車可
利用の料金・費用	無料(活動内容により実費負担) 送迎1往復100円
具体的な事業内容	<p>・事業内容</p> <p>①基礎的事業…憩い・交流の場提供(フロア、交流会、映画鑑賞、料理、手話歌、健康体操など)・学びの活動(パソコン学習・講座の実施)・創作活動(手工芸、書道、絵手紙)・外出・社会交流(機関誌発行、バス外出)・その他(外部講座参加、外部団体への場所提供)(視覚障害者支援他)</p> <p>②機能強化事業…研修生、体験生受け入れ・ボランティア受け入れ・当事者ボランティア受け入れ・相談、精神的サポート・就労支援(勉強会等)・その他(研修、講演の情報提供)</p> <p>・1日の流れ</p> <p>9:30～12:00と13:00～15:00企画を含む日中活動、15:00～17:00フリー※日中活動は個人で決める。</p> <p>・開館日および開館時間</p> <p>祝祭日を除く月曜日～土曜日(企画により閉館あり)</p> <p>第1・3月曜日【9:30～15:00(15:00～職員ミーティング) 火曜日～土曜日9:30～17:00】</p> <p>・歳末たすけあい募金特別配分金申請 ・レクリエーション活動等支援事業補助金・その他補助金申請</p>
評価	<p>・利用者中心の活動を目標に、障がい限定をせず障害のある方・ご家族の受け入れを行ってきた。精神障がいの方の利用が多い。新型コロナウイルスの影響も少しずつ緩和され、福祉関係者のサポート(見学・紹介など)、利用者同士の繋がりで誘い合う事も増え、様々な方が利用して下さり、少しずつ利用人数が安定してきた。利用者の傾向は、10代から80代まで幅広く、年代を超えて交流ができることは喜ばれている。活動は基本個人で考えて自由に過ごしてもらうので、人数にばらつきがあるが、外出企画・芸術鑑賞・手芸関係は大勢の方が参加し、とても楽しみにしてもらっている。女性の利用者が多いようだ。利用者からの持ち込み企画(リクエスト企画)などもあった。リピート利用に繋がっている。</p> <p>・事業所の雰囲気が静かで過ごしやすい、高田へ越してから広くていいとの理由で、他の事業所との併用をし使い分ける方も多い。休日がずれているので使いやすいのご意見もある。利用者の皆さんは、自分のペースを守り、利用ルールを守り活動しているので、トラブルが起きることもなかった。</p> <p>・毎年、レクリエーション活動に力を入れ、「礼儀作法の講座、音楽鑑賞、スポーツ、DVD鑑賞など」幅広い内容で計画し、利用者以外(家族・友人など)の方にも参加をして頂いた。多方面からご紹介頂き、新しい団体とも繋がる事ができ、「障がいの方との交流の機会になった」と感想も頂いた。また、家以外の場所としての時間をもち、生活リズム作りの1歩として過ごす方の居場所として定着しつつあると感じた。</p> <p>・活動の場の提供はできたが、社会的な経験や自立に向けての体験の提案がもっと出来るとよかった。</p>
課題	<p>地域活動支援センター「びあ・ふれんず」の、かつどう内容・特色などがわかるパンフレットや動画の検討・作成に至らなかった。また、地活の存在や支援内容を、地域の方々に『知ってもらう』を目指して、びあ・ふれんずから情報発信を行っていく必要がある。支援者側の障害理解の学習、支援方法のスキルアップ、支援の巾を広げるため、各種勉強会の参加し、地域団体、市、法人本部など関係機関と連携をとり、支援体制を整えていく事が求められる。事業所では、当事者の想い、支援への希望に耳を傾け、一緒に考え情報や選択肢を提供していく。一人一人を大切に出来る支援を継続し、その人の希望に向かう「個別支援計画」をできるだけ作成し、一緒に過ごせる場になる。</p>
次年度への具体的な取り組み内容	<p>☆バリエーション豊かなレクリエーション活動・学ぶ場を開催 ※月1回以上</p> <p>一人暮らし、自立生活を目指す皆さんが必要とする内容を集約し、楽しく学べる企画・交流する機会を計画実施。外部からの講師を招待し広く周知し、多くの人に参加してもらう。</p> <p>☆仲間同士で交流・情報交換・情報発信できる場作り、お手伝い※機関誌の記事作りにも参加呼びかけ</p> <p>来所することの難しい方のために、場所を移して実施できる機会を設ける※出張地活</p> <p>☆視覚障がい者支援の会に協力する※現状を広げる</p> <p>ボランティアの養成とボランティア団体のネットワークを作り(実現できなかった)、定期的に情報交換・場所提供し支援の基礎を作る。※コロナ状況を見ながら進める</p> <p>☆地域活動支援センター同士の交流を呼びかける※福祉ねっと(かつどう部会)への参加を継続</p> <p>●個別支援計画(願い)を利用者と作成し、利用の目的・方向を一緒に考えていく。</p> <p>●地域団体、公民館、関係機関への通信の配布・地域行事への参加(地区役員へ挨拶に行く)</p> <p>●法人ホームページをもっと周知し、掲載のびあ・ふれんず通信を多くの方に見て頂く。</p>

令和4年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	特定・一般・障害児相談支援事業 長野市障害支援区分認定調査 長野市個別避難計画作成
施設の名称	まい・すてっぷ相談支援室
施設の所在地	長野市高田1134-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	月曜日～金曜日 8:30～17:30 (年末年始を除く)
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	所長 1名 相談支援専門員 4名
利用対象者	身体障害・知的障害・精神障害いずれかの手帳を有する0歳～65歳の障害者(児) 手帳を有しないがサービス利用対象者と認める証明のある障害者(児)
利用者の状況	障害者(児)計画相談 431 件
送迎	なし
車輛の利用状況	家庭訪問・事業所訪問・会議や研修出席等に公用車1台(リース) 公用車登録の自家用車4台
利用の料金・費用	法定代理受領による (提供地域を超える場合は交通費(定額)負担ある)
具体的な事業内容	事業目的 障害者(児)の生活に係る課題や問題の相談に対し、その人らしく生活をしていくための支援を行う。 計画相談 ・身体障害、知的障害、精神障害の計画相談。(プランの作成・サービス調整等必要な支援) ・障害 プランから介護保険プランへの移行支援。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・真摯にケースに向き合う姿勢を保ち、新規ケースも積極的に受け入れたことで給付目標額を達成した。(年間新規計画相談数61件) ・他相談支援事業所の諸事情によるケース移行受け入れなど、長野市の相談支援体制の充足のための役割を担っている。 ・常に各々のケースを事例や課題としてスーパービジョンを行い、相談支援の質の向上のための努力ができています。 ・病院や保健師、社協、民生委員など地域の人材や制度、サービスなどを活用しチームアプローチのための調整をしている。 ・ふくしネットの連絡会や研修会、スキルアップ研修等の勉強会に意欲的に参加したり、他事業所の見学を定期的に行い知識と情報力を向上し業務に反映させた。 ・法人全体のサービスの質の向上のために、提案と工夫をしている。 ・感染症まん延状況を注視し、訪問や会議の持ち方等業務遂行の仕方を配慮し感染拡大防止に努めた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域において公的な福祉サービスだけでは対応できない生活課題が増えている。特に山間地域などで、資源の行き渡らない困窮ケースは課題となっている。 ・他職種連携・チームアプローチにおいて、それぞれの職種による考え方や優先ポイントが異なることから生じる不調和を防ぐために、共通認識や情報の共有化、役割分担などを明確にしチームを作ることが求められる。 ・増加しているサービス利用希望者に対し、ニーズに十分な対応ができるよう盤石な体制を維持する必要がある。 ・障害福祉サービスが社会に浸透してきたことにより、その効果について制度以上の期待がある。そのケースに合わせた正しい説明や対応をする能力が求められる。
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークの担い手としてスキルと知識を高め、社会資源の開発、地域の支援者や住民との関係を構築し、その人が生きがいや希望を見出せる支援を行う。 ・他職種連携、チームアプローチにおいてそれぞれの支援の見方の違いでおこる溝や隙間を埋めるために、相談支援専門員が間に立ちコーディネートを行い、連携を潤滑にし、その人のための支援チームを作る努力を行う。 ・相談援助の知識と能力の向上のために、勉強会や研修等に積極的に参加し専門性を高める。 ・思いやりと相手を受け入れる度量をもってケアマネジメントを行い、意思決定できる環境作りをする。 ・その人のストレングスを発見し尊重することで、その人の持つ可能性をつぶさない。

令和4年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	長野市障害者相談支援事業(市委託) ※委託期間:令和3年度～令和5年度まで、契約は1年更新
施設の名称	長野市北部障害者相談支援センター・長野市南部障害者相談支援センター
施設の所在地	【北部】長野市大字南長野新田町1485-1 長野市もんぜんぶら座6階 【南部】長野市川中島町今井1387-5ハーモニー桃の郷3階

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～金(祝日、12/29～1/3を除く) 8:30～17:15
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	【北部】所長: 1名 専門員: 1名 【南部】専門員: 1名
利用対象者	長野市内に住む障害児者・家族、関係機関等
利用者の状況	○各センターの相談対応件数については、別添資料の通り ○長野市障害ふくしネットに関わる関係者は、障害当事者、障害者団体、障害福祉事業所、保健、医療、教育、雇用関係者、行政など
送迎	(無) 有()
車輛の利用状況	【北部】公用車登録の自家用車1台を利用 【南部】公用車1台
利用の料金・費用	無料
具体的な事業内容	長野市障害者相談支援業務委託仕様書」に基づき以下の事業に取り組む (1) 障害者総合支援法第77条に掲げる事業 (福祉サービスの利用援助/社会資源を活用するための支援/社会生活力を高めるための支援/権利擁護のために必要な支援/専門機関の紹介/地域の相談支援体制の強化の取組) (ア) 地域の相談支援事業者に対するバックアップ (イ) 支援困難事例の対応・調整 (ウ) 地域の相談支援事業者の人材育成 (エ) 地域の相談機関との連携強化 (オ) 学校や企業等へ赴き、各種情報の収集・提供や事前相談・助言 (2) 長野市障害ふくしネットへの参画(南部障害者相談支援センターにおいては、事務局の一部業務委託も受けている) →ふくしネットに関わる会議等への参加実績は、別添のとおり
評価	1 業務の標準化 同じ事業を受託する相談センターとして、業務の標準化を目指している。各センターミーティングでの検討、月2回の南北センターのミーティングでは事例検討等を通じて検討・共有を行っているが、日常的にケースの共有や検討が十分行える時間がとれず、相談員によって、ケースの進め方やつなぎ方が異なっていることも指摘されている。共通の記録様式の整備も必要。南北センターは物理的な距離があるため、意思統一等の難しさを感じることもある。 2 委託相談の役割の明確化 継続ケースを通して、委託相談の役割の明確化を目指しているものの、ミーティングで話す機会は持てたが、整理分析までは出来ていない。 3 ふくしネットへの関わりの強化 部会のフォローを各部会担当者で行った。地域課題に関する取り組みについては、やりにくさを感じており、仕組みの検討も必要か。 4 指定相談支援事業所のバックアップ 北部では相談支援事業所への訪問を行い、メーリングリストをスタートした。南部では昨年度相談支援事業所への訪問から、南部地域の相談支援事業所の集まりを試行した。
課題	●業務の標準化については、今後も取り組みが必要。 ●継続ケースの分析が出来なかったが、令和6年度からの長野市の相談支援体制の再構築にむけて、委託相談の役割を整理していくことは必要。 ●他分野の相談支援センターとの情報共有する機会が少なく、市内の状況を総合的に把握しきれていない。 ●指定相談支援事業所とのかわり方に各センターでばらつきがある。関係作りをすることで、地域の課題の見えやすさや人材育成につながっていくか。
次年度への具体的な取り組み内容	長野市北部・南部障害者相談支援センターとしての、R5年度の重点目標としては、次のとおり。 1 業務の均一化(専門員個々・センター間の偏りの無い業務、相談への関わり方の共有、記録の統一化、センター間の連携) 2 継続ケースの見える化(継続ケースの整理分析、事例を通した専門員の役割の検討、業務量の見える化) 3 委託相談間の情報共有(児童発達・地域移行等、他センターとの連携・課題共有) 4 指定相談支援事業所のバックアップ(事業所との関係作り・課題共有、人材育成) 5 その他(研修の計画的実施、他分野との連携強化・情報共有)

(報告様式)

障がい者総合支援センターの利用者及び相談支援の状況 (R3)

センター名： 長野市北部障害者相談支援センター

1 障がい種別登録者数 (実人数)

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	合計
84	107	402	71	98	762
視覚障がい者				高次脳障がい	
15				11	
聴覚障がい者					
3					

2 障がい種別相談延べ件数

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	合計
643	2,111	4,514	705	107	8,080

3 支援方法別相談延べ件数

訪問	来所	電話	電子メール	個別支援会議 (ケア会議)	その他	合計
705	448	2,745	154	315	3,713	8,080

4 相談の内容 (複数回答あり)

相談内容	延べ件数	割合
福祉サービスの利用	4,720	19.89%
社会資源の活用	4,720	19.89%
障害や病状の理解	2,103	8.86%
健康・医療	2,069	8.72%
不安解消・情緒安定	1,974	8.32%
保育・教育	230	0.97%
家族関係・人間関係	1,597	6.73%
家計・経済	1,408	5.93%
生活技術	1,320	5.56%
就労	1,762	7.43%
社会参加	655	2.76%
余暇活動	655	2.76%
権利擁護	95	0.40%
その他	420	1.77%
合計	23,728	100.00%

※ 把握している範囲で結構です。

(報告様式)

障がい者総合支援センターの利用者及び相談支援の状況 (R3)

センター名： 長野市南部障害者相談支援センター

1 障がい種別登録者数 (実人数)

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	合計
59	88	207	54	45	453
視覚障がい者				高次脳障がい	
3				2	
聴覚障がい者					
2					

2 障がい種別相談延べ件数

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	合計
476	1,268	3,381	564	86	5,775

3 支援方法別相談延べ件数

訪問	来所	電話	電子メール	個別支援会議 (ケア会議)	その他	合計
260	401	3,639	61	202	1,212	5,775

4 相談の内容(複数回答あり)

相談内容	延べ件数	割合
福祉サービスの利用(社会資源の活用)	3,289	47.97%
社会資源の活用	上記に含む	
障害や病状の理解	616	8.98%
健康・医療	567	8.27%
不安解消・情緒安定	276	4.03%
保育・教育	109	1.59%
家族関係・人間関係	351	5.12%
家計・経済	238	3.47%
生活技術	645	9.41%
就労	277	4.04%
社会参加(余暇活動)	216	3.15%
余暇活動	上記に含む	
権利擁護	12	0.18%
その他	261	3.81%
合計	6,857	100.00%

※ 把握している範囲で結構です。

令和4年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	生活介護
施設の名称	びあっと
施設の所在地	長野市箱清水2丁目11-2

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～土 9:00～16:00
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	<p>所長兼サービス管理責任者 1名 生活支援員：5名 生活支援員兼事務：1名 生活支援員兼掃除：1名 看護師：2名 調理員：3名 運転手：1名 掃除：1名</p>
利用対象者	身体、知的、精神
利用者の状況	身体19名、知的11名、精神13名 合計43名
送迎	有、他マイカー2名
車輛の利用状況	送迎用：キャラバン、エブリ、ノア2台、ステップワゴン
利用の料金・費用	<p>サービスに要した費用の原則1割、または利用者本人等の負担能力に応じ、市町村が定めた額 プラス実費(昼食代350円とお茶代50円) 水道光熱費(入浴のない人)100円/日 水道光熱費(入浴のある方)100円/日+150円/1回</p>
具体的な事業内容	<p>生活介護事業・・・入浴、食事、排せつ介助の支援、日中活動、行事の提供 ≪日中活動では≫ 体操、体重測定、歩行練習、PC、塗り絵、デッサン ≪日中外出、行事≫ 花見・県立美術館・しまむら買い物・直売所買い物・秋祭り・運動会・新町道の駅・まめトラ 移動販売ラーメン・クレープ移動販売・焼き芋販売</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染者や濃厚接触者の方が多く、思うような活動が出来なかった。 ・利用者同士の距離を確保し体操や声を出すレクを行う事は難しく中止せざるを得ない状態。出来る活動が個人で取り組める作品に限定されてしまった。 ・びあっとのアピールポイントである外出が出来ずアピールポイントの減少。また、コロナの影響もあり見学も控える傾向があり新規利用に繋がらなかった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナがR5年5月に5類になり、社会全般に外出等も通常に戻りつつある。それに伴いびあっともアピールポイントである外出活動に力を入れていく。新型コロナが無くなった訳ではない為、感染に配慮しながらの活動を行う。
↓	
次年度への具体的な 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に外出企画を立てる。 ・びあっと城山独自の活動企画を立てる。 ・誕生日企画として、お祝いメニューの提供。 ・昨年度に引き続き、利用者に定期的に満足度アンケートを取り、傾聴していく。 ・新型コロナ感染予防を行う。送迎時の検温、来所時のアルコール消毒(手・車椅子)、定期的な換気、室内アルコール消毒の継続。 ・一定数の利用者数確保。利用定員数の見直し。給付、加算の見直し。 ・職員が定着して務められる環境作り。また、基本的情報と実技的な介助方法や利用者への接遇の研修を行い職員の育成を行う。

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	生活介護
施設の名称	ぴあっと・まつおか
施設の所在地	長野市松岡1丁目13-11

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～土 9:00～16:00
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	所長： 1名 サービス管理責任者： 1名 生活支援員：3名 (R5.3月時点) 看護師： 2名 運転手： 1名
利用対象者	身体、知的、精神
利用者の状況	身体20名、知的7名、精神5名 合計32名
送迎	有り
車輛の利用状況	送迎用キャラバン3台、ハイゼット、ノア
利用の料金・費用	サービスに要した費用の原則1割、または利用者本人等の負担能力に応じ、市町村が定めた額プラス実費(昼食代250円・水道光熱費100円/入浴あり+150円・お茶代50円等)
具体的な事業内容	生活介護事業・・・入浴、食事、排せつ介助の支援、日中活動、行事の提供 《日中活動では》 体操、歩行練習、塗り絵、季節の装飾作り、散歩、DVD鑑賞、風船バレー等、オセロ、 《日中外出、行事》 花見・近隣の店舗でお買い物・運動会・足プール・工場見学・まつおかカフェ等
評価	・コロナの第8波により職員に複数名陽性者が出た為、R4.9.6～R4.9.15迄事業所を閉鎖することとなった。その前後においても発熱等風邪症状で利用を控えて頂くことがR5.2頃まで続き、利用の減少、活動内容の制限等、大きな影響を受けた。度々陽性者は確認されたが事業所内のクラスター発生を防ぐことはできた。 ・昨年に引き続き利用者同士の距離を確保し体操や声を出すレクを行う事は難しく中止せざるを得ない状態。出来る活動が個人で取り組める作品に限定されてしまった。 ・職員体制については人材不足により派遣職員の雇用を続けた為、経費を圧迫する期間が長く、R5.1まで解消できなかった。 ・職員が報告・連絡・相談が出来るようになってきている。また、統一した支援が出来るようになってきている。新規利用者確保にも意欲的になっている。
課題	・重度障害の方に見合った活動内容 ・医ケア者の新規受け入れの為に広報活動 ・医ケア者に対応する基礎技術と知識の向上
次年度への具体的な取り組み内容	・医療的ケアが必要な方が在宅での生活が送れるように、日中の活動場所として広く受け入れしていき、事業所の特徴としていく。 ・重度の障害があっても日中の活動を充実したものにするため、活動内容に創意工夫を凝らす。具体的には光や音、香り等の五感を刺激するプログラムを多く用意していく。次年度は実験的な活動を繰り返し、利用者の評価を精査し活動プログラムを構築していく。 ・医療的ケア者の新規受け入れのための営業活動を養護学校、相談事業所等に行っていく。 ・生活支援員に対して医ケアの研修、勉強会を行う。

令和4年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	就労移行支援
施設の名称	はたらくびあっと
施設の所在地	〒381-0034 長野市大字高田1134-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	営業時間 月～金 9:30～16:00
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	管理者・サービス管理責任者 1名 事務/就労支援員 1名 職業指導員 1名 生活支援員 1名
利用対象者	3障害
利用者の状況	精神 2名、発達 1名、身体 1名 新規契約 3名、就職 2名、就労継続支援B型へ移動 1名
送迎	有 (主に身体を対象として)
車輛の利用状況	送迎 日産セレナ1台、トヨタ ノア1台
利用の料金・費用	障害者総合支援法に定められたとおり
具体的な事業内容	<p>【就職支援】利用者の主体性を尊重し、面談を通して個々の目標に沿った個別支援計画により、作業や訓練の実践することで、必要な知識や経験を積み、自信を持ち就職に向き合えるよう支援する。 パソコン訓練は、各種アプリケーションの習得や関連機器の操作を学び就職時の強みとなるようにスキルアップを目指し就職に繋げる。 就職支援は、ハローワークを活用し、ご本人の希望と適正に合う就職先の選定を行う。また履歴書作成のアドバイスから、模擬面接等の試験対策を行い自信を持ち就職活動を行えるよう支援する。 実践的な在宅訓練により、在宅勤務を目指す方に、必要なスキル習得に向け支援する。 また、希望者には県の短期トレーニング促進事業や民間活用委託訓練を利用し企業の実習を行う。</p> <p>【実践的な訓練】会議録テープ起こし、データ入力、各種印刷(大判・名刺・チラシ印刷)、パンフレット等の作成(一般・行政、法人内)、封入作業、カットイングシート制作、企業からの受託作業、清掃作業。</p> <p>【健康管理支援】健康・精神状態の把握から、就職し就労を維持できる健康の保持と生活リズムの安定、社会的マナーの向上、感染症や衛生面などを指導し、健康面、精神面併せて支援する。</p> <p>【生活支援】社会人としての自覚と規範意識を持ち、安定して通えるよう健康面、生活面からの指導を行う。</p>
評価	<p>【就職状況】令和4年度3月の時点で3名の利用。令和4年度の就職状況は、スタッフサービスクラウドワーク、長野県教育委員会へ、計2名が就職に結びついた。就労をされた方々を定期的にフォローし、各自の状況に応じて必要とされる課題の解決を行った。6ヶ月の定着支援経過後も必要な方には定着支援事業へ引き継ぎ安定した勤務が出来るよう支援を行っていく。</p> <p>【仕事内容】企業からの受託作業や、実務的な作業を行い働くために必要な実践的スキルを身に付けてもらった。多くの業務を経験してもらうことで移行利用者の工賃は上がっている。</p>
課題	<p>就労移行の利用者を確保していくこと。現在のB型からの移行に移動できるように育てながら、就労アセスメントを通じ利用者確保をするために各関係機関に向けた周知を行っていく。</p> <p>新しい利用者と呼び込む最良のために、就労実績を重ねることは重要であり、各関係機関、企業との連携を強化し、「移行」・「定着」・「B型」と揃った障害者就労を進める事業所「はたらくびあっと」と知ってもらおう。</p> <p>また、就労アセスメントを受け入れながら、利用者を確保し増やすことに繋げる必要がある。</p> <p>多様化するニーズの中で事業所の特色をどうアピールしていくかが重要。</p>
次年度への具体的な取り組み内容	<p>はたらくびあっとは「障害者就労を確実に進める事業所」というイメージを、強みとして積み上げてきた就労実績を発信していく。職員全員が、「障害の程度に関係なく、就職し社会に戻りたいという強い気持ちを持つ方に、就職への道は必ず開く」という考えから、「徹底的な傾聴、実践に即した支援技術の向上、職員全員のチーム支援」を職員間で共有する。利用者との信頼関係をより強め、就職に向けた意識と自身をつけてもらい、ハローワーク等を活用し、利用者の希望、能力、適正にあった就職先を選定し、その人が望む生活を送れるよう就労への支援を行う。作業、訓練においても事業所のカラーとなる物を取り入れて行き、在宅訓練では、柔軟かつ実践的な訓練を行い、在宅就労の実績も各方面へアピールする。</p>

令和4年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	就労継続支援B型
施設の名称	はたらくびあっと
施設の所在地	〒381-0034 長野市大字高田1134-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	営業時間 月～金 9:30～16:00
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	管理者・サービス管理責任者 1名 職業指導員 1名 生活支援員 1名
利用対象者	3障害
利用者の状況	身体 7名、精神 9名、知的 2名 新規契約 5名、就労移行から移動1名
送迎	有(主に身体を対象として)
車輛の利用状況	送迎 日産セレナ1台、トヨタ ノア1台
利用の料金・費用	障害者総合支援法に定められたとおり
具体的な事業内容	<p>【就労支援】利用者の主体性を尊重し、面談を通して個々の目標に沿った個別支援計画により、作業や訓練を実践することで必要な知識や経験を積み、やりがいを持ち就労に向き合えるよう支援する。 パソコン訓練では、各種アプリケーションの習得や関連機器の操作を学びスキルアップを目指す。 実践的な在宅訓練により、在宅勤務を目指す方に、必要なスキル習得に向け支援する。 就労支援は、移行支援同様にハローワークを活用し、ご本人の希望と適正に合う就職先の選定を行い、履歴作成のアドバイス、模擬面接等の試験対策を行い自信を持ち就職活動を行えるよう支援する。 また、希望者には県の短期トレーニング促進事業や民間活用委託訓練を利用し企業の実習を行う。</p> <p>【実践的な訓練】会議録テープ起し、データ入力、各種印刷(大判・名刺・チラシ印刷)、パンフレット等の作成(企業、行政、法人内)、封入作業、カッティングシート制作、企業からの受託作業、清掃作業。</p> <p>【健康管理支援】健康・精神状態の把握から、就労を維持できる健康の保持と生活リズムの安定、社会的マナーの向上、感染症や衛生面などを指導し、健康面、精神面併せて支援する。</p> <p>【生活支援】社会人としての自覚と規範意識を持ち、安定して通えるよう健康面、生活面からの指導を行う。</p>
評価	<p>【利用状況】令和4年度3月の時点で18名の利用。3月に就労移行からの移動は1名、新規利用者は5名あった。就労アセスメントからの継続してB型の利用に繋がった。一方で健康上の理由などにより3名が利用終了となった。</p> <p>【仕事内容】企業からの商品化受託作業は波があるものの通年で行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響も前半では多少見られた。新たな受託作業は高い精度が必要なものもあり、利用者が限られるものもある。優先調達関係の受注は前年に比べ若干増加しているが、次年度も継続できるように確保していく。 パソコンでの業務について再考の余地があるので利用者のスキルに合わせ検討していく。</p> <p>【工賃支払】利用日数が多い方、仕事に積極的に参加している方には工賃を多くお渡しできているが、利用日数の少ない方の工賃額が非常に低い状態である。前年に比べ500円程度平均工賃はアップしたが、全体ではまだ低い状態のため利用者のモチベーション向上に繋がる仕事を確保していくことが必要となる。</p>
課題	<p>新規の利用者確保にある。相談支援事業所や養護学校にもアピールできるような魅力ある事業所とし、利用者を増やせるように、そのための情報発信を積極的に行っていく。 作業種類は増えているが、高度なスキルを求められる仕事も限定されてしまうケースもある。利用者によりやいを感じられる仕事を確保し、モチベーションを高め、安定した利用になるよう支援を続けていく。一人一人が、作業の目的、仕事への意識を持ち、全体の過程を把握しながら自主的に取り組んでいけるように、職員は利用者の特性に合わせた適切な支援をしていく。 県平均工賃に対して依然として低い状況であり工賃を上げる取組みを行う。 また今後、高齢化していく利用者を就労支援施設で引き受けていくべきかが課題となってくる。</p>
次年度への具体的な取り組み内容	<p>就労希望のある利用者が利用日を増やしていけるように、その人の思いや、体調とよく相談しながら安心して働くことが出来るように、訓練や作業内容も含めモチベーションアップにつながる工夫や、コミュニケーションを取りやすい環境を提供していく。</p> <p>仕事面では、はたらくびあっとの特徴を活かした仕事、作業を取り入れ新規の利用者確保に繋げていくとともに、他事業所と情報交換、優先調達制度の活用などから工賃アップを目指していく。</p> <p>また在宅就労というニーズには、実践的な在宅訓練を取り入れ、在宅就労に向けたスキルを向上させていく。就労に就労の気持ちと、必要なスキルを身に付け、環境が整った時に、就労移行支援へ移し就職へにつなげる支援を行う。</p>

令和4年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	就労定着支援
施設の名称	はたらくびあっと
施設の所在地	〒381-0034 長野市大字高田1134-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	営業時間 月～金 9:30～16:00
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	管理者・サービス管理責任者 1名 就労定着支援員 1名 就労定着支援員 1名
利用対象者	3障害
利用者の状況	精神 1名、発達 1名、身体 1名
送迎	無
車輛の利用状況	日産セレナ1台、トヨタ ノア1台
利用の料金・費用	障害者総合支援法に定められたとおり
具体的な事業内容	<p>【定着支援】就労移行ならびに、就労継続支援B型より就職し、6ヶ月の定着支援を終了した者に対し、希望により、その後3年間の就労定着支援をおこないます。必要に応じて障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、ジョブコーチとも協力し、利用者が安定して就労が継続出来る環境を整え、雇用側と利用者双方の意思疎通を図り職場への定着を支援します。</p> <p>また、定期的な相談を通じ、生活リズムや環境の変化などに伴い生じる生活面の課題を把握し関係機関などと連携して解決に向け、指導・助言など支援を行います。</p> <p>基本方針</p> <p>①【主体性】利用者の主体性を尊重し、円滑なコミュニケーションこそが就労継続にとって大切であることを理解して貰い、職場での環境整備、コミュニケーションの場の提供、手法の訓練を実施します</p> <p>②【生活支援】就労を継続するために必要な健康の保持増進と快適かつ安全な生活ができるように支援します。</p> <p>③【地域福祉】地域の企業に採用されている利用者が、地域・行政・ボランティア等関係各方面との連携がとれるように支援し、相互理解と交流を通して地域福祉の充実に貢献します。</p>
評価	<p>【就職状況】</p> <p>令和4年度は、3名が定着支援を利用していたが、1名の利用が満了を迎え終了となった。その後として障害者就業・生活支援センターへ繋ぎ支援が入ることで安定した勤務が出来ている。</p> <p>また、就業先の企業等にとっても、事業所との連携によって、様々な課題を解決する役割も担っている。</p> <p>そこから就業先との信頼関係を構築することで、新たな就業先の発掘を行うことに繋がっていく。</p> <p>今後とも就職後6か月を経過した利用者へ、身近な応援者として定着支援を行っていく。</p>
課題	<p>安定した勤務ができるようになったことで、定着支援が利用を終了するケースも出てくるため、利用者の確保が必要になってくる。各関係機関や企業との連携を深め、「移行」・「定着」・「B型」と揃った障害者就労を進める事業所「はたらくびあっと」として知ってもらい、利用者を増やすことに繋げることが必要となる。</p> <p>会社のサポートが手厚く定着支援を入れなくても不安なく勤務することが出来ているケースもあるが、生活面を含め安定した生活を送れるような支援も必要となる。</p> <p>また3年経過するも、不安が残る方には障害者就業・生活支援センターへ繋ぐことも考慮していく。</p>
次年度への具体的な 取り組み内容	<p>①【就労定着率実績の向上】定着実績100%を目指し、長く安心して就労できるように支援します。</p> <p>②【企業連携】企業側へ求められる合理的配慮の手法を具体的に展開するお手伝いをします。</p> <p>③【利用者の確保】安定した就労に繋がるように定着実績を重ね、就労実績を訴求し、相談支援専門員、ハローワーク、定着支援を持たない事業所への認知を高めます。</p> <p>④【スキルアップ】必要な講習会受講、関係団体との関係を構築します</p> <p>⑤【就労支援との連携】就労移行事業所、就労継続B型事業所の連携を進めます。</p>

R4年度 月別平均工賃額 一覧表

はたらくびあっと

	就労移行			B型		
	利用者工賃 合計金額	人数	1人当たり 平均額	利用者工賃 合計金額	人数	1人当たり 平均額
4月	16,419	3	5,473	58,769	17	3,457
5月	16,867	4	4,217	45,588	17	2,682
6月	37,959	5	7,592	71,400	16	4,463
7月	30,432	5	6,086	65,282	16	4,080
8月	21,575	3	7,192	55,625	16	3,477
9月	16,696	3	5,565	46,097	17	2,712
10月	26,518	5	5,304	60,840	17	3,579
11月	65,878	6	10,980	59,761	16	3,735
12月	14,652	4	3,663	45,789	19	2,410
1月	13,208	2	6,604	49,688	18	2,760
2月	13,585	2	6,793	60,688	18	3,372
3月	15,422	2	7,711	96,133	18	5,341
合計	289,211	年間平均額	6,432	715,660	年間平均額	3,505

令和 4年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	訪問介護事業 居宅介護事業 同行援護 移動支援事業
施設の名称	訪問介護事業所 おたすけ・ぴあっと
施設の所在地	長野市大字高田川端西沖 941-5

2 事業報告

営業日及び営業時間	月曜日～日曜日 8:30～17:30 (電話により24時間連絡可能)
職員配置 (職名・氏名) 責任者名 (役職)	所長・サービス提供責任者・訪問介護員 1名 サービス提供責任者・訪問介護員 1名 サービス提供責任者・訪問介護員 1名 訪問介護員 6名
利用対象者	居宅介護：身体・知的・精神障害者 訪問介護：65歳以上の要介護者、また40歳～64歳の特定疾患をお持ちの要介護者
利用者の状況	訪問介護：10名 居宅介護：66名 同行援護：22名 移動支援：26名
送迎	無 有 ()
車輛の利用状況	公用車 (ミラ2台)
利用の料金・費用	居宅介護：利用者の負担能力に応じ市町村が定めた額 訪問介護：サービス費用の1割・2割・3割負担
具体的な事業内容	①担当者会議、個別支援計画書作成、モニタリング、サービス調整等、利用者が在宅において日常生活を営める事ができるように支援していく。利用者の置かれている環境・状況に応じて身体・生活面の援助・外出時の支援等を適切に行う。利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立った支援を心掛ける。 ②給付・請求書・法定代理受領作成、発行。 ③毎月サービス状況報告書を作成し、ケアマネージャー・ケアプランナーに情報提供、及び虐待が疑われる場合は通報する。④ 営業による新規獲得。
評価	①常に報告・連絡・相談が出来る環境作りを心掛け、月に1回のミーティングにより、情報を共有することで、ヘルパーのスキルアップ、意識向上に繋がっている。 ②毎月15日までに利用者への請求書、法定代理受領書を滞ることなく発送できた。 ③利用者の状況変化等その都度、ケアマネージャー・ケアプランナーに報告することにより、利用者の情報を共有することができた。 ④スマホ・システムの導入により早めの情報収集と介護員間の情報共有が出来、サービス提供に共通性が出てきた。 ⑤居宅に於いては事業所加算Ⅱを取得することが出来た。
課題	・自立支援に向けて、個々のスキルを上げる事が必要。 ・個々の課題、目標に基づいた研修を行い、事業所全体のスキルアップに繋げる。 ・報告・連絡・相談を迅速に行うことで他事業所との連携、サービスの協調性、統一性が出て自立支援に繋がる。 ・訪問介護員の確保、育成
↓	
次年度への具体的な取り組み内容	・月に1回のミーティング時に研修等を行いスキルアップを図る ・個別研修計画に基づいた研修に取り組み、個々のスキルアップを図る ・報告・連絡・相談を迅速に行い、情報共有することで、サービスの統一性を図る ・サービスの質の向上に努め、ケアマネージャーやプランナーとの連携を図ることで、新規獲得に繋がるようにする ・働きやすい環境と整備の見直しを図る

令和4年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	居宅介護支援
施設の名称	おたすけ・ぴあっと
施設の所在地	長野市大字高田1134-1 ぴあ・ぷらざ

2 事業報告

営業日及び営業時間	月曜日～金曜日 9:00～18:00 (年末年始を除く)
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	所長 1名 介護支援専門員 2名
利用対象者	・40歳以上65歳未満の特定疾病者 ・65歳以上の高齢者
利用者の状況	69件
送迎	なし
車輛の利用状況	ダイハツミライース 1台(リース車)
利用の料金・費用	本人負担なし(提供地域を超える場合は交通費(定額)負担あり)
具体的な事業内容	<p>事業目的 障害者及び高齢者の、生活に係る様々な問題の相談に対し包括的な支援を行う。</p> <p>事業内容 40歳以上65歳未満で特定疾病対象者の2号被保険者と65歳以上の要介護者のケアプランを作成し、サービスの調整や担当者会議の開催、給付管理、障害プランから介護保険プランへの移行支援、定期的なモニタリング等を実施する。</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・障害支援から介護保険への移行にあたり、法人内で連携を取り、スムーズに行うことが出来た。 ・1人ひとりの利用者丁寧に向かいあうことで信頼関係を築くことが出来た。 ・施設入所等により、利用者数が減少したが、職員の退職時期と重なり、新規利用者の受け入れが出来ない状況にあった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所運営を軌道に乗せる為には、現在69名の利用者数を90名に伸ばす必要がある。
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をクリアする為には、常勤職員1名の確保が必要である。 ・人材確保の目処が立った時点で、速やかに利用者獲得に向けた営業を行ない、利用者数の確保につなげる。

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	共同生活援助・短期入所
施設の名称	三津和園
施設の所在地	長野市信州新町山上条1561-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	24H 365日
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	管理者 所長： 1名 (のんびりほ～む兼務) サービス管理責任者： 1名 生活支援員・世話人： 6名 宿直： 3名
利用対象者	障がいの種別問わず
利用者の状況	2名(身体) 5名(知的)
送迎	有り:利用者買い物・通院・通所先・旅行等、送迎実施(燃料代実費利用者負担)
車輛の利用状況	保有車両ノア1台(リース)
利用の料金・費用	共同生活援助費、食材費、水光熱費、日用品など、月額 55,000円～65,000円
短期入所	食材費:朝375円 昼485円 夕485円 水光熱費300円/日 個人消耗品自費
具体的な事業内容	生活の場としての支援を提供する事業 1、家事等の日常生活の支援 2、食事、排泄、入浴等の支援 3、健康管理、金銭管理の援助 4、日常生活における相談 5、緊急時の対応 6、日中活動にかかわる他の事業所との連絡、調整
評価	・入浴や排泄および洗濯・掃除などの日常生活の支援を行い利用者が安定した日常生活が送れるよう支援を行った。 ・身体、精神面の急激な変化が多くみられるなかで、関係機関と連携して支援に取り組むことができた。 ・身体障害者に対し必要とされる受け入れと支援を行う事が出来た。 ・感染症予防対応策等、引き続き周知徹底出来た。
課題	・コロナウイルス感染症対策の為、多くのニーズである余暇活動が不十分だった。 ・障がいに対する理解を今以上に深める。 ・感染症予防対応策等の専門知識を今以上に身につけて行く。 ・職員の高齢化に課題が残る。 ・短期入所利用者。
次年度への具体的な 取り組み内容	・職員間のミーティング等で定期的に個別支援計画の見直しや検討を行い、継続して周知徹底し支援の質に繋げる。 ・感染症や虐待防止等の専門知識などの研修を事業所内で行える機会を増やしていく。 ・感染症などの情報等収集し、休日の余暇支援を行う。 ・短期入所利用募集を引き続き行う。

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	共同生活援助・短期入所
施設の名称	のんびりほ〜む、のんびりほ〜む・お2かい、のんびりほ〜む・もも、のんびりほ〜む・おとこぐみ、のんびりほ〜む・さくらがおか
施設の所在地	<ul style="list-style-type: none"> ・のんびりほ〜む、お2かい、もも 長野市稲葉2320番地1 ・おとこぐみ 長野市大字七瀬中町211番地15 ・さくらがおか 長野市高田941-5

2 事業報告

営業日及び営業時間	365日24H
職員配置(職名・氏名)責任者名(役職)	管理者 所長： 1名(三津和園兼務)、主任： 1名(R5年1月1日付け異動) サービス管理責任者： 2名(世話人兼務) 生活支援員・世話人： 22名
利用対象者	障がいの種別問わず
利用者の状況	身体23名(精神・知的重複含む)、知的5名、精神3名
送迎	緊急時等
車輛の利用状況	日本財団の助成を受け整備。(軽車両1台)
利用の料金・費用	共同生活援助費、家賃、食費、水光熱費、日用品など、月額 65,000円から75,000円 短期入所: 食材費: 朝320円 昼470円 夕500円 水光熱費300円/日 個人消耗品自費
具体的な事業内容	(1) 共同生活を営むべき住居に入居している利用者に対し、日常生活において行われる入浴、排泄及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事、生活等に関する相談及び助言、通所先その他関係機関との連絡、その他必要な日常生活上の支援 (2) 個別支援計画に基づき、利用者が安心して有意義な生活を送れる為の支援 (3) 利用者の金銭の取り扱い (4) 地域の住民との交流 (5) 障がい者雇用
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が安心して有意義な生活を送れる様、利用者のニーズ等を職員全員が把握出来ることと、日々の変化等の申し送りを周知徹底した。 ・新型コロナウイルス感染症予防対応策等引き続き周知徹底出来た。関係機関との連携が密に行えたのと、環境整備が出来ている。 ・地域住民との交流に向け、職員がすすんで挨拶をする事。ゴミ出しなどマナーの徹底に努めることが出来た。 ・スタッフミーティングで虐待防止等の研修が毎月行えている。 ・虐待の事案に対し緊急入居の受け入れが出来た。 ・2名障がい者雇用出来ている。定着にむけ、他の職員に対しハローワークの研修を受けた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・女性職員の不足と男性職員の高齢化に課題が残る。 ・精神、行動障害のある利用者に対して、職員の知識、理解が不足しているところが見受けられる。研修等で理解を引き続き深めていく必要がある。 ・身体介護技術のさらなるスキルアップ。マニュアルの見直し。介護ロボット導入し職員の腰痛等軽減。 ・感染症予防、対応策等の専門知識を今以上に身につけていく。 ・障がい者雇用の定着と理解。
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のミーティングの際、虐待防止等の研修も引き続き行い個々のスキルアップを強化していく。 ・職員の介護技術力向上にむけ、具体的な内容が掲載されている資料などを基に研修を行っていくのと介護ロボットを使いこなす。マニュアルの見直しや修正を行い、サービスの均一化にも引き続き取り組む。 ・感染症予防対応策に対しての専門知識研修を行える機会を今後も継続していく。 ・職員面談など適宜行っていく。

令和4年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	地域活動支援センターⅢ型
施設の名称	長野市地域活動支援センターⅢ型 つくし
施設の所在地	長野市信州新町山上条1561-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～金曜日 8:30～16:30 (祝祭日、盆、年末年始を除く)
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	所長 : 1名 指導員 : 2名
利用対象者	身体・知的・精神障害者
利用者の状況	現在 4名
送迎	<input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> 有 (現在 月～金 水防会館まで)
車輛の利用状況	2台(軽バン・軽トラは今年度でリース終了) 所有 送迎、農機具運搬 等
利用の料金・費用	利用の料金は無料 実費負担有り 工賃有り
利用者の工賃	月平均 2,700円
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・老人ホーム等の清掃活動(火・水・木) ・簡易農業(山菜栽培 露地物野菜 育成等) ・田畑の草刈り管理・ガラスハウスを利用した 薪束作り ・栽培した野菜等の販売、加工品(実費徴収)の配達 ・おやきの粉の計り分け(委託作業) ・焼き芋機での焼き物販売 乾燥機による椎茸販売 ・パソコン印刷(名刺 年賀はがき ラベル 封筒 等) ・パソコン等による、デザイン業務(各種依頼、オリジナル商品作成) ・事業所内外のイベント(花見や食事会 販売所視察 等) ・朝のラジオ体操、ストレッチ、TV放映での体操等 レクや番組鑑賞
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期は仕事数が少ないが単純な作業や勉強など、利用者全員で行うことができました。 ・マキ束作りは、ガラスハウスを利用でき天候に左右されず効率よくできた。 ・農作物は天気の影響や人材不足があり、収穫、品質等余り良くなかった。 ・利用者の高齢化や体調・都合により利用者の減少となった。 ・今年は、寒暖の差があったが利用者、職員の健康管理等に、気をつけることができました。 ・利用者の作業能力が下がって来ていて職員負担が多くなった。 ・農作物の収穫など、利用者と一緒に過ごすことができました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・作業が出来ない利用者の増加傾向があり、作業内容等の検討が必要。 ・パソコン印刷のセールス、業務を増やす営業や宣伝が必要。 ・販売の幅を広げるためのオリジナル商品の開発及び販売方法の検討。 ・利用者の増減、作業意欲の減退により、作業人員の確保が難しい。 ・事業が分担になるので職員の配置(職員の各自休暇の場合の対応策の検討)。 ・農作物の販売方法(施設等への販売と定期的な販売場所の拡充)。 ・経費が掛かる物に関しての節約計画、および実行。 ・利用者の通所(特に作業が出来る)を増やす。 ・利用者の高齢化に伴う施設利用者の減少。
次年度への具体的な 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜等は栽培するが、販売というより事業所のイベントを主に使用する。 ・薪束作りを今年度で終了するが、その時間をイベントやレクに力を注ぐ。 ・利用者の個別支援計画を明確にし、計画及び見直しを行う。 ・パソコン印刷業務の営業を積極的に行う又、新規作業の検討を更に行う。 ・経費の管理を徹底し、節約計画を立て、実行する。 ・近隣の保健師さんや相談員さんと連携を深め新規の利用者を増やす。 ・障がい者のみではなく、高齢者の利用も受け入れる。 ・定期的なイベントを開催し、作業だけではない利用者の確保を目指す。 ・寒暖の差が大きくなっている状況で、体調管理を更に密にする(体操や散歩等、体を動かす)

R4年度 月別平均工賃額 一覧表

つくし

	利用者工賃 合計金額	本人支給金 合計金額	合計	人数	1人当たり 平均額
4月	4,188	4,152	8,340	4	2,085
5月	5,455	3,766	9,221	4	2,305
6月	4,438	3,599	8,037	4	2,009
7月	4,400	4,185	8,585	4	2,146
8月	4,938	3,366	8,304	4	2,076
9月	5,225	3,548	8,773	4	2,193
10月	3,238	4,017	7,255	4	1,814
11月	9,729	3,996	13,725	4	3,431
12月	24,888	816	25,704	4	6,426
1月	1,475	3,527	5,002	4	1,251
2月	5,038	2,349	7,387	4	1,847
3月	17,790	2,599	20,389	4	5,097
合計	90,802	39,920	130,722	年間平均額	2,723

令和4年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	就労継続B型事業所
施設の名称	ぐーと
施設の所在地	長野市稲里町下氷鉦字北河原1315-2

2 事業報告

営業日及び営業時間	月曜日～金曜日 8:30～17:30 (利用時間)
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	所長兼サービス管理責任者 1名 食品衛生管理者 1名 生活支援員 1名 目標工賃達成指導員 2名 職業支援員 2名
利用対象者	身体障害・知的障害・精神障害
利用者の状況	就労継続B型 身体 3名・知的 9名・精神 6名
送迎	あり
車輛の利用状況	送迎車 ノア・セレナ(リフト車)・ハイゼット(リフト車)
利用の料金・費用	障害者総合支援法に基づく利用料
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。日中において生活リズムや食事等の栄養バランスの指導、生活等に関する相談及び助言その他の必要な生活上の支援を行う。 ・お菓子、デザート製造販売、外注箱折り。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・給付費が令和3年度 18,908,812円→令和4年度 19,469,701円 約3%のアップ。利用者は4減1増、今まであまり利用が出来なかった方が自分の意志で退所を決めている。 ・販売に於いては令和3年度 3,603,843円→令和4年度 3,775,992円 約4.8%のアップ。原料が軒並み値上がりするが素材やグラム数の見直し見直しを行い粗利の確保を行った。また販売数を前々日に決め出来る限りロスが出ないよう務めた。 ・季節商品を定期的にチェンジすることで、飽きのこない商品作りを心掛けた。 ・軽作業に関しては箱折とダンボールの組み立てをメインに行い、企業からの発注も安定しており作業の空き時間はほとんど無かった。 ・就労支援事業収入は僅かではあるが就労支援事業支出を上回った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・安定的な売り上げの確保と障害者理解を深めてもらうためにも地元の優良企業への売り込みの必要。 ・新規利用者の獲得。 職員のコストへの意識と更なる経費削減。 ・障害特性の理解と対応。
次年度への具体的な 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本無線と新光電気に対して売り込みを進める。 ・各養護学校、特別支援学校との連携を強化し信頼関係を深めぐーとに何が求められているかを探る。 ・毎月の経費を提示することにより一人一人がコストに対する理解を深め、無駄の削減に努める。 ・障がい特製の知識を深めるため機会があれば各種研修への参加を行いたい。

R4年度 月別平均工賃額 一覧表

ごと

	利用者工賃 合計金額	人数	1人当たり 平均額
4月	63,971	16	3,998
5月	60,148	18	3,342
6月	71,981	19	3,788
7月	62,547	18	3,475
8月	65,166	17	3,833
9月	62,969	16	3,936
10月	64,753	17	3,809
11月	59,920	16	3,745
12月	57,535	15	3,836
1月	56,327	14	4,023
2月	57,324	14	4,095
3月	67,335	15	4,489
合計	749,976	年間平均額	3,864

令和4年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	研修事業
施設の名称	共同研修センター
施設の所在地	長野県長野市大字高田941-5

2 事業報告

営業日及び営業時間	不定期
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	センター長 1名 事務員 1名
利用対象者	一般、施設職員関係者等
利用者の状況	雇用保険受給対象求職者及び雇用保険を受給できない求職者で、職業訓練を受講する方
送迎	無
車輛の利用状況	無
利用の料金・費用	特に定めなし
具体的な事業内容	<p>《職業訓練》 雇用保険を受給している求職者及び、雇用保険を受給できない求職者向けの職業訓練の委託を受けて介護職員を養成し、介護現場への就職に導く研修事業を運営している。訓練委託を受けるためのプロポーザルへ参加。令和4年度は4件の企画書を提出した。</p> <p>1. 公共職業訓練(長野技術専門学校からの受託) ①令和4年7月14日～10月13日(委託元:長野県技術専門学校) 訓練期間 3カ月 NN-08介護職員養成科 受講者8名、修了者8名 訓練内容:介護職員初任者研修、長野市移動支援サービス従業者、同行援護従業者(一般課程)、就職支援、ビジネスマナー、キャリアコンサルタント、手話講座、点字講座、傾聴コミュニケーション、アサーション、赤十字救急法、ピアカウンセリング等で、資格を取得する以外に他の訓練機関では学べないカリキュラムを展開できた。また少人数であったことで、演習での講師指導がより充実した人材育成カリキュラムとなった。 ②令和4年11月10日～令和5年2月9日(委託元:長野県技術専門学校) 訓練期間3カ月 NN-17介護職員養成科 受講者7名、修了者7名 訓練内容は①と同様</p> <p>③職業訓練講師交流会 1年ぶりに令和4年度は2回開催した。 第1回目:令和4年6月2日 介護職員初任者講師2名退任に伴う担当講座検討会 第2回目:令和4年10月31日 新規カリキュラムの検討、開講講座の情報共有</p> <p>《卒業訓練生の掘り起こし》 信濃の星で訓練を受講した卒業生に現状のヒアリングを実施し、求職中及び転職希望者に向けて、法人内就職への促し。</p>
評価	<p>1. 職業訓練 ・令和4年度は4件の企画書を提出し、4年度後半に1件、令和5年度前半で2件の訓練受託に繋がった。4年度の訓練実施結果は1回目、8名全員が訓練修了し、就職率100%達成した。8名中3名が法人内へ就職(R4年12月時点)。2回目は7名全員が訓練修了し、5名が就職。就職率71.4%。うち1名が法人内へ就職。尚、2回目訓練での中途退校者も法人内へ就職。令和4年度は合計5名の訓練生を法人内就職へ繋がった。</p> <p>2. 訓練修了報告、施設実習報告、就職状況の確実な提出による訓練委託金入手 1回目委託金:8名×5万円×3カ月+実習支援金+就職支援金8名×2万円×3カ月=2,112,000円 2回目委託金:7名×5万円×3カ月+実習支援金+就職支援金5名×1万円×3カ月=1,602,000円予定</p> <p>3. 訓練チラシのリニューアル(令和4年後期訓練より使用)</p> <p>4. ホームページへ訓練内容を掲載し、PRを図った。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい訓練科目の検討(プロポーザルでの評価獲得) ・職業訓練が開講されない期間の研修室利用方法(利益となる方法) ・介護職員初任者研修の法人内講師の育成 ・新規実習受入れ先の確保 ・HPへのタイムリーな情報掲載
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練受講者へアンケートによるカリキュラム評価実施と改善点等の把握 ・職業訓練が開講されない期間における研修室利用方の1つとして、「働く人の学び直しの場拡充支援事業補助金」事業参加への検討(長野県産業労働部主催) ・卒業した訓練生の掘り出しの継続(求職中、転職希望者に向けた情報支援) ・法人内で、介護職員初任者研修の講師を担える職員の選出と可能な範囲で講師助手として訓練に参加してもらいながら、講師としてのスキルアップを図る。 ・新規実習先の確保に向け、情報収集と開拓。また、従来の実習受入れ先との情報交換等での更なる信頼関係の構築